

「心身機能の障害」を理解しよう

どのようなことに障害を感じるのかは、人によって異なります。心身機能の障害についても同様で、種類や程度によってさまざまです。同じ人でも、周囲の環境や体調によって異なるため、すべてを明確に分類することができません。ですが、主な心身機能の障害を理解することは、心のバリアフリーを実践するためのヒントにもなります。

視覚障害

まったく見えない(全盲)、光が感じられる(光覚)、メガネで矯正しても視力が弱い(弱視)、見える範囲がせまい(視野狭さく)、色の見え方が異なる(色覚異常)などさまざまです。

聴覚障害

まったく聞こえない人(ろう者)、聞こえにくい人(難聴者)、病気や事故で突然聞こえなくなった人など、聞こえ方に個人差があり、外見からはわかりにくいです。聞こえないことによって声を出して話すことが難しい人もいます。

障害の特性に合わせて考えよう 〈心身機能の障害によって異なる対応例〉

障害の特性はそれぞれ異なります。どんな方法や、心がけをすると心地よい配慮になるでしょうか。各障害の特性に合わせた対応例を参考に考えてみましょう。

視覚障害

周囲の状況がわかりづらい障害です。まずは声をかけましょう。説明をする場合でも「あれ」「これ」などの指示語は使わず、「2歩先」や「右です」と具体的に説明することが必要です。方向や位置を伝える時は、視覚障害のある人の向きを中心に。場合によっては、相手の理解を得た上で、手をそえ、ものに触れてもらい説明をします。点字ブロックの上にも立ったり、ものを置くなど、歩行をさまたげたりしないようにしましょう。



聴覚障害

まずは本人に、どのような方法(音声、手話、筆談など)でコミュニケーションをとればよいか確認しましょう。話しかける時は、本人の正面に行き、口の動きを見せます。筆談をする場合は、短文で簡潔に表現します。また、1対1では音声での会話ができる人でも、複数の人が一度に話すと聞き取りが難しくなることも。手話や筆談も困難になります。聴覚障害のある人が、安心してコミュニケーションができる状況を整えることが大切です。



肢体不自由

まひなどで手や足など身体のどこかが動かない、あるいは動かしにくい状態にある人がいます。身体に力が入らなかつたり、思うように動かなかつたりと、さまざまな状態があります。車いすや、つえを使う人もいます。

内部機能障害

心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、かん臓、免疫機能など、身体の内部に障害があり、外見からはわかりにくいです。疲れやすかつたり、長時間立っていることが難しかつたり、ひんぱんにトイレに行く必要がある人もいます。

難病

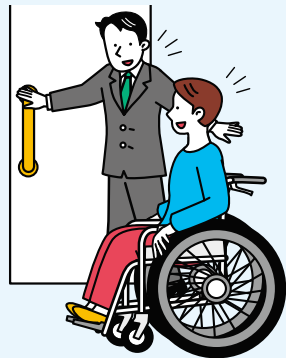
原因不明で、症例が少なく、治療が極めて難しい病気があることです。後遺症を残す恐れがあることや、症状が續くこと、生活面に支障をきたすことがあります。ストレスや疲れによって症状が悪化することもあります。

知的障害

知的機能の障害がおおむね18歳頃までに現れ、日常生活でさまざまな不自由を感じる人がいます。未経験のことが苦手だつたり、自分の気持ちの表現を難しく感じたりと個人差があります。

● 肢体不自由

肢体不自由のある人にとって、手動式ドアの開閉は非常に困難です。見かけたら、ドアを開き、手で押さえるなどサポートをしましょう。また、日常会話などコミュニケーションを取ることが難しい場合もあります。わかりやすい内容で、ゆっくり、確認をとりながら説明をしましょう。また、相手の言葉が聞き取りにくい場合でも、わかつたふりをせずきちんと確認することが大切です。車いすを使用している人と話す時は、座るなどして視線を相手に合わせましょう。



● 知的障害

家族や支援者と一緒でも、かならず本人の思いを聞きましょう。絵や図など、見てわかりやすいように工夫しながら話すことが大切です。たくさんのことを一度に伝えず、ひとつずつゆっくりと、ていねいに説明することを心がけましょう。相手が混乱していたり、言葉を発するまでに時間がかかつたりしているようであれば、ゆっくり考えていいことを伝えましょう。

